



登山月報

JMSCA

登山月報 第630号 令和3年9月15日発行
昭和45年12月12日第三種郵便物認可（毎月一回15日発行）



バルトロ・カンリ(c7,280m)

8月11日 みんなで山を考えよう!

祝「山の日」
 全国「山の日」協議会
 山に親しむ機会を得て 山の恩恵に感謝する

No.630

山岳スキー 2026ミラノ・コルチナオリンピック大会での正式競技化決定…	2
東京五輪関係者への御礼 JMSCA会長 丸 誠一郎 ……………	2
2021年度全国山岳遭難対策協議会 報告……………	3
新連載 Enjoy Climbing ……………	4
令和3年度全国指導委員長会議報告……………	6
令和3年度高等学校等指導者夏山研修会報告……………	6
第18回山岳遭難事故調査報告書(1) ……………	8
JMSCA、寄贈図書、表紙のことば、編集後記 ……………	10

山岳スキー2026ミラノ・コルチナオリンピック大会での正式競技化決定

山岳スキー委員長 笹生博夫

山岳スキーが2026年開催のミラノ・コルチナ冬季大会において競技として採用されることがオリンピック開催に合わせて東京で開かれたIOC総会で正式に決まった。この競技の国内統括団体は当協会であるので、JMSCAはスポーツライミングと合わせて夏冬にまたがる2競技をもつ唯一の競技団体となった。

山岳スキー競技は、一般的に言う山スキーを軽量化した用具をつかい、10-25km程度の距離に標高差300-800mの斜面を3-5回シールをつけて登り、シールをはずして滑降りし合計タイムを競う競技である。いわばスキーを使ったトレランである。

2020年のスイスのローザンヌで開かれたユースオリンピック冬季大会に於いて山岳スキーは正式競技として実施され、今回2026冬季大会正式競技化につながった。

コルチナ大会で実施予定の種目は5種目(男女各2のレースはスプリントと個人。それに男女混合リレー)である。スプリントは標高100-150m程度の斜面の中にスキーでの登り、スキーを外して歩いての登りとスキー滑降を合わせて一周3-5分程度のスピード感あふれた競技である。個人は主にオフピステを使って合計標高差、女子1300mから男子1900m(最大) 距離15km、1.5-2時間程度のコースを上り下るダイナミックな競技である。

JMSCAがこの競技に関わるきっかけは1990年代まで国際山岳連盟UIAAの傘下組織として活動していた当時、総会会場で参加の働きかけがあったからである。2004年3月スペインのスキーリゾートで開催された第2回世界選手権大会に選手を派遣したのが最初の取り組みであった。この大会に参加した役員・選手が中心となって翌2005年4月、日本で初めて大会が第1回日本選手権として、長野県小谷村柵池高原スキー

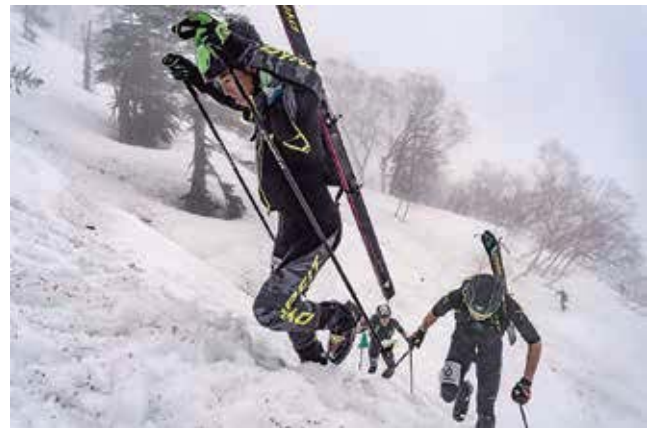
場で開催された。

以来本年まで柵池で日本選手権大会が実施されている。大会実施に際しては、長野県山岳協会と地元小谷村柵池高原観光協会、山岳ガイド降旗義道氏などに初回から今日まで多大なご支援を頂いている。継続的なご支援に改めて感謝申し上げたい。

日本選手権や世界選手権を経験した選手達がそれぞれのホームゲレンデに知識を持ち帰り北海道、山形県、長野県、富山県など各地でレースや講習会を開催し現在に至っている。

今後、オリンピック種目化でアルペン、クロスカントリなどスキー種目からの参加や、スカイランニングやトレラン選手の流入もありそうで、競技人口が一気に増えることが期待される。

国際大会での日本選手の実力は伝統があり選手層の厚いヨーロッパ諸国の選手に比べるとまだまだ及ばないところがあるが、アジア選手権では日本選手が常に上位を占めるなど優位にある。近年は20代の若い選手が実力をつけており、2026年に向けて選手強化に力を入れればヨーロッパの選手に負けない記録を出す選手も出てくると思われる。



東京五輪関係者への御礼

東京2020オリンピックは、8月8日閉幕いたしました。今大会から新種目として加えられましたスポーツライミング複合種目の、女子コンバインドにおいて、二人の日本選手が銀・銅のメダルを授与されるという、歴史的栄誉を授かることができました。このことは、皆様が男女4名の日本代表選手のほか、多くの強化選手をはじめ、私共JMSCAを長年、懸命にお支えいただいた、賜物であることは、言うまでもありません。

IOCの皆様、IFSCの皆様、JOCの皆様、五輪組織委員会の皆様、スポーツ庁、日本スポーツ協会、日本スポ

ーツ振興センター、四十七都道府県の各岳連・協会の皆様をはじめ、多くの協賛企業の皆様、コロナ禍にもかかわらず今大会の準備に数年前から関わり、またこの8月3日からの4日間、大会運営をサポート頂いた多くのボランティアの皆様、世界中に情報を発信いただいたメディアの方々に、心から感謝と御礼の気持ちをお伝えいたします。

私共は、明日から2024年のパリ大会に向けて、再び汗をかいてまいります。どうか引き続き、ご支援の程を宜しくお願ひし、一言お礼の挨拶とさせていただきます。

JMSCA会長 丸 誠一郎



2021年度全国山岳遭難対策協議会 報告

遭難対策委員長 町田幸男

全国山岳遭難対策協議会は2年ぶりの開催となった。

昨年度はコロナ禍の影響で中止となった。今年は初の試みとして文部科学省講堂とオンライン参加のハイブリッドによる開催となった。参加者は講堂36名オンライン622名参加で山岳関係者は50名、うちリアルで15名参加。講堂での開催となると参加人数は350名ほどに限定されるが、オンラインを取り入れることで600人以上の参加が可能となり、業務への感染影響が大きい警察、消防関係者には大変好評であった。今後、講習会や研修会等のイベント開催にあっては新たな試みとして普及するであろう。内容について以下に報告する。

報告Ⅰ「令和2年における山岳遭難の概況」

例年実施されている山岳事故件数について警察庁の赤嶺課長補佐より報告。20年度は19年度につづき遭難者、件数ともに減少に転じ遭難者数は2697人と3千人を割り込んだ。しかしながら遭難者の78%が中高年のうち60歳以上が50%を占め、態様は44%が道迷いといった傾向は変わっていない。コロナ禍における登山形態の変化で里山での事故が増加したとの声もあるが、統計では北アルプスを中心とした長野県での事故が依然トップである。唯一コロナの影響と言えるのはインバウンドの登山者減少による事故の減少くらいであろう。詳しくは警察庁のHPを参照ねがいたい。

報告Ⅱ「山岳救助支援員制度について」(Zoom参加)

静岡県消防局山岳救助隊 望月消防司令より静岡市における山岳遭難への対応状況について報告。静岡市は南北に120kmと細長く北には3000m級の南アルプスが控えており、里山を含めると管轄範囲は広範囲に及ぶ。特に南アでの遭難は地形による気流が複雑で容易にはヘリが近寄れない場合が多い。地上部隊が対応する場合、現場に到達するまでに1日以上かかる場合もある。このような環境に対応すべく30年前に山岳救助隊を発足、年間を通じ訓練を行っている。

ローテーションが多く同じ署員が隊員を務めるのが難しいため、救助経験者を山岳救助支援員として各署に設置し有事の救援増員に充てている。

講演「道迷いと減遭難活動」

今回はJMSCAより青山理事(遭対常任)による講演をお願いした。全山遭は本来減遭難に対する議論の場であるとの認識から、遭対委員会での道迷いに対応した活動を紹介した。道迷いに関しては那須での道標整備による事故ゼロの報告があり、道迷いに対し道標整備の効果が証明されている。この活動を全国に広めるべく遭対委員会では兵庫裏六甲、大阪ダイヤモンドトレール、東京奥多摩の3つのモデル地区を設定し、地権者の了解を得ながら簡易的な標識設置を進めている。効果が明確になれば各都道府県岳連での活動に発展させたい。消防、警察をはじめ地元行政の協力を是非とも仰ぎたい。

講義「コロナ禍から考える新しい登山様式と減遭難」

午後は一昨年に続き村越教授のファシリテートによるワークショップを行った。初めにコロナ禍が浮き彫りにした社会や登山における環境課題について講義頂いた。これまでの生活環境や登山スタイルに今後戻っていくのか、New normalな環境に生まれ変わる必要があるのではないかとの問いかけがあった。続いて3件の講演が行われた。

- ①「国際的に見た新型コロナウイルス感染における救助活動と登山」大城和恵氏(医師)ヨーロッパを中心とした登山事情や救助活動について報告。マスク着用や、山小屋の営業可否に対する考え方の相違について紹介された。徹底したエアロゾル対策が肝要とのこと。
- ②「2020～2021年の取材や対策活動を通して」柏澄子氏(ライター・登山ガイド)八ヶ岳、南ア計16件の山小屋を取材。消毒やCO2センサー設置、食堂での配膳の方法などコロナ対策が定着しており、まさしくNew normalな環境変化がうかがえる。
- ③「富山県の登山事例を踏まえて」飛弾晶夫氏(富山県警山岳警備隊長Zoom参加)20年度の立山剣における遭難は減少を見せたが8月の登山者は増加し、トイレは2時間待ち。救助体制では隊員はもちろん要救助者にもタイベックス(防護服)を着用させている。

以上3件の講演者に青山理事を加えたパネルディスカッションと、QRコードを使った参加者のリアルアンケートを実施、今後懸念される登山への変化についてまとめた。最後に登山研修所藤原所長による山岳遭難事故防止のための提案と、JMSCA丸会長からの挨拶を頂き閉会となった。



増本亮&さやかの Never Ending Journey ⑨

フィッツロイを目指して

デスモチャーダから戻るとまたしばらく悪天が続いた。悪天の間に一日程度の好天がぼつりぼつりとある程度だった。このまま今年のパタゴニアも終わってしまうのかと諦めかけていたが、帰国直前に最後のチャンスが訪れそうだ。好天予報は3日間。この前よりは少し気温も高い。山の準備を進めながら再び熟考の日々が始まる。本命はやはりウェイブ・エフェクトだ。だがこの前の好天以降の天気の変化を考慮すると、山の状態はほとんど改善していないだろう。3日間という期間も私たちの実力ではタイトな日程で余裕がない。葛藤のすえ私たちはフィッツロイだけに照準を絞ることにした。フィッツロイには東西南北様々なルートが拓かれている。その中でどこを選択するか。今の山の状態からすれば、アフアナシエフというフィッツロイのルートの中では比較的難易度の低いクラシカルなルートを選ぶのが、最も登頂できる可能性が高いと思われた。だが私たちはただ登頂することだけを目的にここに来た訳ではない。瑞牆山やエルキャピタン、ほか様々なところで築き上げてきた自分達の経験と能力を出し切り、全力を尽くしてフィッツロイの頂に立ちたかった。私たちは北壁に挑戦すると言う答えを出した。北壁は標高差約1,300m。ちょうど中間に大きなバンドがあり、上部と下部に分かれているため、容易に下部と上部で違うルートを組み合わせることができる。私たちは下部をタフエルチェ、上部をエル・フラコ・コン・ドミンゴという二つのルートをリンクアップすることに決めた。このラインは北壁の中でも最も合理的かつ直線的で美しいラインと言える。

普段なら雪のかけらのもないベースキャンプとなるピエドラネグラは、一面雪に覆われていた。石組みのテントサイトもほとんど雪に埋もれている。ショベルなど持ち合わせていないクライマー達は小さなコッヘルで雪をかき出している。そんな状況でもクライマーの表情は明るい。クライマーからはようやく待ちに待ったクライミングができるという喜びが伝わってくる。翌朝、周りを見渡せば様々な場所でヘッドライトの灯りが瞬いている。その光に少しばかり勇気をもら



フィッツロイ頂上稜線を行く増本さやか

い我々も北壁を目指した。

果たして北壁はまともにクライミングできる状態なのか。不安は常に頭の中をぐるぐると回っている。それでもロープを結んで登りはじめれば、その状況を受け入れ目の前の岩だけに集中し登ることを楽しめる自分がいることも知っている。圧倒的な迫力の北壁が迫る中、隣のピラー・ゴレッタを登攀する舟生、金坂ペアが確認できた。心の中でお互いの健闘を叫ぶ。北壁に朝日が当たり始めた。デスモチャーダでは浴びることのできなかった陽光に力がみなぎってくる。太陽の偉大さに感謝する。心配だった傾斜の緩い下部壁もそれほど雪の付着はないようだ。私は水を得た魚の如くロープを伸ばし始めた。中間バンドまでは17ピッチで、ワンピッチだけイレブンがあるほかはファイブテン以下だ。スピードが求められる。とは言えビバーク装備を背負ってのロッククライミングは負荷が高く、思い通りにピッチを稼いでいくことはできない。午後になると雪解け水がクラックの中を流れ始めたものの、そんなことは気にせず濡れたクラックに手足を躊躇なく突っ込み先を急ぐ。悪条件をもともせず突き進むのがパタゴニアのロッククライミングだ。夕方には場所によっては壁の中を滝のように水が流れ始めたが、幸いにもルート上にそのような箇所はなく、日暮れ前になんとか中間バンドに辿り着いた。広々としたバンドに快適なビバークサイトを構築し、一日の緊張感から解放される。西側のピエルジョルジオの山稜とその先に広がる広大な南氷床、そしてさらにその向こうに沈む夕陽の美しさにしばし目を奪われる。背後には傾斜を増した上部壁が凄まじい迫力でそそり立っている。明日の登攀への不安と期待を胸にシュラフに潜り込んだ。

微風快晴、最高の天気のもと二日目の登攀を開始した。上部壁は下部壁に比べ傾斜が強くほぼ垂直で所々オーバーハングしている。ルートは無数に走るクラックの一つを辿っている。ルート図では稜線までが11ピ

ッチと数で言えば昨日よりも少ないが、ほとんどのピッチが60mのスケールで登攀距離は下部壁を上回る。アルパインスタイル、オンサイトフリーで拓かれたルートであり、当然アンカーもランナーも残置ボルトなどは一切ない。岩を読む力が試される。2ピッチ目にいきなりノープロテクションの5mほどのスラブが現れた。墜落すれば小さいカムやストッパーで構築された、決して完璧と言えないアンカーに墜落荷重がかかる。難度もファイブテン程度はあり決して易しいとは言えない。一瞬「敗退」の二文字が頭をよぎる。相当な緊張感の中、時間をかけ一步一步じっくりと歩みを進めた。切り抜けた時は深いため息とともに、どっと疲労感が押し寄せてきた。まだ始まったばかりだということに先が思いやられた。やはりと言うべきか、その先もどのピッチにも癖があり、気の抜けるピッチは一つもなかった。ほぼすべてのピッチにワイドクラックのセクションがあり、奮闘的でスピードも上がらず体力を奪われた。それに加え下からは確認できなかった雪や氷がクラック内に詰まっていたグレード以上に困難にさせた。核心部である7ピッチ目11bのオーバーハンクしたワイドクラックを奮闘の末無事に登りきり、この先は易しいピッチが続くと安堵したのもつかの間、次のピッチを目にしてその希望は打ち砕かれた。僅かに左に上昇する、体が半身入る程度のフレアーしたワイドクラックが、水平に伸びている。しかもクラックの奥には氷が詰まっていたプロテクションが取れそうにない。再び「敗退」の二文字が頭に浮かぶ。しかしここまで来て簡単に諦めるわけにはいかない。私は意を決して腹ばいになり半身をクラックの中にねじ込み、絶対吐き出されまいと全身に力を込め匍匐前進を始める。墜落への恐怖で冷静になどなっていない。ただ我武者羅に死に物狂いで前進した。どうにか精根尽き果てる前にプロテクションが決まり大分気が楽になった。その先は氷も少なくなりなんとか真の核心部を足元にした。そこからは順調にヘッドランプの明かりを頼りに稜線に抜けアファナシエフルートと合流した。ビバーク適地にはお決まりのように硬い氷のような雪がたっぷり積もっていた。おもちゃのような軽量アックスで時間をかけて雪をかき出し、テントの中に入るころには日付が変わっていた。岩壁は登りきった。あとは山頂へと続く易しい岩稜を辿るだけだ。

セロトーレの西側に雲が湧き始めた。今日は少しずつ風が強くなる予報だ。下降で強風につかまれば命に関わる。予想していたよりも長く、難しい岩稜を同時登攀を交えスピーディーに登っていった。そして私た

ちは誰もいないフィッツロイの山頂に立った。

果たしてこの山頂にどんな意味があるのだろうか。恐らくここに立とうが立てまいが私の人生はほとんど変わることはないだろう。それでもなぜこんなにも一生懸命にここを目指すのか。私には分からない。分からないけれどどういう訳か自分でも信じられないような力を発揮することができる。山に登ることでしか知ることのできない自分がある。それが登山の不思議な魅力でもあるし、私が山に登る理由なのかもしれない。

町ですれ違うクライマー達の顔は黒く日に焼け、言葉交わさなくても充実した登山をしてきたことを物語っている。私たちは慌ただしく帰国の準備に追われた。5カ月という月日もあっという間に過ぎ去りこの旅ももう終わる。友人たちとの再会を誓い合い、名残惜しい慣れ親しんだ町に別れを告げた。同時に車窓に輝くフィッツロイに向け、心の中で再訪を誓った。

旅における日常はとてもシンプルだ。食べることと寝ること、それに自分達のやりたいこと、ただそれだけで日々は過ぎていく。そんな日々は非日常、非現実の世界だろうか。現代社会の日常はあまりにも多くの情報にとらわれ生活を複雑にしている。本当に自分のやりたいことを見失い、それほど自分にとって重要でもないことに時間や労力を費やしてはいないだろうか。私は旅のようなシンプルな時の流れを理想として、日常を営んでいきたい。

*

旅は私自身にとっての幸せの意味や人生において重要なこと、本当に必要な物は何かということを感じさせてくれる。私は自分が夢中になれる無償の行為がなんなのか知っていて、それを中心に生きられることを幸せに思う。それは時間と共に変化していくのだろう。私はこれからも旅の教えを元に、その時その時自分が夢中になって取り組めるものを見だし、それを大切に生きてゆきたいと思う。

完

(亮・記)

令和3年度安全登山指導者研修会 [西部地区] 開催

1. 趣旨：登山の基礎的な知識や技能について習得するとともに研究協議を行い、登山初心者を含む一般登山者の指導者養成と安全な登山の普及を図る。
2. 主管：佐賀県山岳・スポーツクライミング連盟
3. 期日、開催地
(1)期 日：令和3年11月20日(土)～22日(月)
(2)開催地：佐賀県武雄市山内町周辺
詳細URL 指導者講習 (jpnssport.go.jp)

令和3年度全国指導委員長会議報告

日時：令和3年6月6日(日) 13:00～15:50

場所：WEB(ZOOM)開催

司会：指導委員会事務局長 廣川厚子

参加人数：55名

(指導委員会25名)(都道府県36岳連、参加者38名)

1. 担当理事挨拶(古賀理事)

皆様にはJMSCAの事業、活動にご協力いただきましてありがとうございます。山岳とSCともに人材確保が課題となっており、指導員の方の育成も含めて今後ともよろしく願いいたします。

2. 指導委員長挨拶(登山部委員長 蛭田)

4年前に海員会館で瀧本から引継ぎあつという間に4年が過ぎました。4年毎に指導委員長の交代を重視致しまして次年度は、野村(新委員長)にバトンタッチ致します。夏山リーダーの資格は、一般登山者を巻き込むため立ち上げました。昨年は、神奈川岳連が夏山リーダー養成講習会と検定会を開催。大阪の「登山インストラクター講習会」も認定してきました。

現在、有資格者は 千葉5人、神奈川9人、大阪10人となりました。今年度は新しいテキストを使って運営できるようになり、上級はUIAAの資格取得を目指しております。JMSCAの会員増加と遭難の減少も考えています。

収益も考えなくてはなりません。そこで有資格者の発揮場所も作れるかと思えます。皆様、今後ともどうぞよろしく願います。

3. スポーツライミング部委員長 藤江

昨年度より独立し委員長に就任しました。定例の委員会の開催は今後もWeb会議(ZOOM)で実施していきたいと思えます。全国の連盟/協会においては、スポーツライミングと登山に担当が分かれていない状況ですが内容も相違しておりますので、今後はできれば各都道府県でSC指導委員長を育成いただければと思えます。

4. 登山部新指導委員長挨拶及び令和3(2021)年度の

事業計画(野村)

指導委員会に入って15年になります。委員会の中では一番古くなりましたが、今まで講習会の企画を主に実施しておりましたので皆様にお会いする機会も多かったと思います。今回委員長として蛭田さんがいままで行われました事業の継続と、今後益々開かれた指導委員会にしようと考えております。宜しく願いいたします。

5. SC部指導委員長挨拶および令和3(2021)年度の事業計画(藤江)

SC部と登山部と別れていてもJSPPOの窓口は一つですので、一緒に運営しておりますがブロックでSC指導委員を1人選出頂き、JMSCA SC指導委員会に参加していただきたいと思えますので、どうぞ宜しくお願い致します。

国体の監督もSCコーチの資格を持っている方になる予定です。全国で養成講習会を開催できるように全国に主任検定員を増やしていきたいと思えます。

6. 令和3(2021)年度のスポーツ指導者表彰について

令和3年度 JSPPO表彰(令和3年度12月)

- ①福井県：榎田靖憲 ②岐阜県：水谷嘉宏
- ③島根県：米倉得雄

令和4年度 JMSCA表彰(令和4年度1月)

- ①滋賀県：大越久嘉 ②佐賀県：宮原敏明
- ③東京都：本郷利夫

7. 夏山リーダーの状況説明(蛭田)

JMSCAのホームページに夏山リーダー養成講習会及びコーチ養成講習会の実施予定を掲載しております。今後は、指導者養成講習会の開催要項を送っていただければJMSCAのHPに載せ、全国どこで行っているかがわかるようにしたい。

8. 締め挨拶(野村)

指導委員会は代表者が現在運営をしておりますが、皆さんも同じJMSCAの運営の一員です。益々のご協力をお願いいたします。

令和3年度高等学校等指導者夏山研修会報告

7月9日(金)～11日(日) 国立登山研修所・立山室堂周辺

この研修会は那須の雪崩事故の教訓から始まり今年で4年目になる研修会です。

緊急事態宣言発出の影響もあり、2名のキャンセル

者が出ましたが6名の高等学校等関係者が集まり開催されました。梅雨末期のあいにくの天気でしたが、逆に雨だから体験・体感できる事や、天候判断や行動計

画変更・調整など好天では出来ない事を多く学びました。そして登山計画を作るにあたり、いくつもの引き出しを持つことの大切さを学び、雨でのテント設営や精神的マイナス面も実際に体験できたことは今後の指導にきっと役にたつことと思います。

初日は落雷確率が高いため一日いっぱい研修所内で机上と実技を行い、読図・持ち物チェック・テント設営などを充分時間をかけて行いました。

特に、一人ひとりの登山装備チェックでは、講師の持ち物と比較することで軽量化や効率化イコール安全登山につながる事を学び、新しい発見をしたことと思います。

そしてテント設営では張り綱ペグの角度、結びや石・木などを使った固定法を学び一日は終了しました。

二日目は小雨の中を室堂から雷鳥沢幕営地へ移動し“引率登山”の注意点や約束ごとを学び、安全登山の意識を常に持つことの重要性を改めて知ったのではないのでしょうか。

また今年は残雪が多く“雪の大谷”も高いところで10メートルほど残っており、雷鳥沢幕営地も約半分が雪の下で、わずかに出ている砂地に個人テントを設営し

自炊を行いました。安全面も考慮しタープを研修生と一緒に設営し野外炊飯を行いました。

また今年の研修会では“残雪”を外すことができないため、アイゼン無しの雪上歩行技術や残雪の見極めなども研修に組み込まれ、非常に内容の濃いものとなり、三日目の下山時にはフィックスによる雪渓の安全通過などを実践し、簡易ハーネス・ロープワーク研修なども含めた充実した三日間でした。

(指導委員会 本郷利夫)



小さな掛金、大きな補償

スポーツ安全保険®

対象となる事故

団体・グループ活動中の事故 / 往復中の事故

保険期間

令和3年4月1日午前0時から
令和4年3月31日午後12時まで

補償内容

補償内容は、加入区分によって異なります。
詳しくは、ホームページなどをご覧ください。

4名以上の団体・グループで
ご加入ください。

例
A1、C、A2区分の場合

傷害保険
死亡保険金：2,000万円
後遺障害保険金：3,000万円(最高額)
入院保険金：4,000円/1日
通院保険金：1,500円/1日(30日限度)

※事故の日からその日を含めて180日以内の死亡、後遺障害、入院、手術、通院が対象となります。
※上記に加え、賠償責任保険、突然死葬祭費用保険も付帯されています。

加入区分・掛金

加入対象者	補償対象となる団体・グループ活動	加入区分	年間掛金 (1人当たり)
子ども (中学生以下) ※特別支援学校高等部の生徒を含む	スポーツ活動	A1	800円
	文化活動 ボランティア活動 地域活動		
	上記団体活動に加え、個人活動も対象	AW	1,450円
大人 (高校生以上)	スポーツ活動(指導・審判を含む) ※右記年齢の判断は、「令和3年4月1日」と「掛金の支払い手続きを行う日」のいずれか遅い日の年齢を基準とします。 ※A2区分で対象となる活動も補償されます。	C 64歳以下	1,850円
		B 65歳以上	1,200円
	文化活動 ボランティア活動 地域活動 準備・片付け・応援・団体の送迎 ※スポーツ活動中の事故は補償の対象外です。	A2	800円
全年齢	危険度の高いスポーツ(指導・審判を含む)	D	11,000円

年間掛金には、制度運営費(10円)が含まれます。

公益財団法人 **スポーツ安全協会** TEL **03-5510-0022**



保険の詳しい内容、資料の請求は、ホームページをご覧ください。
ご加入はインターネットからのお手続きが便利です。

スポーツ安全保険

検索

この広告はスポーツ安全保険の概要についてご紹介したものです。ご加入の際には、必ず「スポーツ安全保険のあらまし」および「重要事項説明書」をよくお読みください。詳細は保険約款および特約書によりますが、ご不明の点がございましたら(公財)スポーツ安全協会または東京海上日動火災保険(株)までお問い合わせください。

〈引受幹事保険会社〉

東京海上日動火災保険株式会社 ☎ 0120-233-801
担当課 公務第2部 文教公務室 (平日9:00~17:00)

〈共同引受保険会社(令和3年4月予定)〉

あいおいニッセイ同和 共栄火災 損保ジャパン 大同火災 東京海上日動 日新火災 三井住友海上 AIG損保

第18回山岳遭難事故調査報告書(1)

コロナ災禍にある登山活動

1. コロナ災禍の記録

2020年春、世界的なコロナ災禍の第1波が始まって以来、我が国では第4波まで来襲し(図1)、累積総数は、陽性者数約76万人、退院または療養解除約70万人、死亡13200人となった(6/7現在)。一方、世界規模では1.73億の感染者数、373万の死亡者数となった。

コロナの終焉については、専門家の説が分かれ、2021年末までとする説と、2023～24年まで長期化する説がある。ワクチンの接種率や、さらなるコロナの新変異株の出現などの要素に依存すると言われているが、感覚的には今年中に終わる気がしない。悲観論であることを願っている。



図1 厚生労働省資料より加筆

2. 登山活動への影響

コロナの登山活動への影響は、2020年、多くの山域交通機関が運行を停止すると共に、山小屋が休業となったが、欧米に見るロックダウンほど強い規制ではなく、山中から登山者が消えることはなかった。

現在も一部の地域では非常事態宣言による規制があるものの、大半の山小屋が営業している情報を「Yamakei ONLINE」や「石井スポーツ山小屋リンク」などから知る事ができる。

<https://www.yamakeionline.com/journal/detail.php?id=5746>

<https://www.ici-sports.com/enjoy/yamagoyalist.html>

コロナが未だに最盛期である以上、明確な登山活動への被害状況は掴めない。多くの山小屋に頼ってきた登山道の整備は、長野県(図2)だけでも、未整備道がかなりある。全国レベルで、梅雨の豪雨シーズンを迎

え、さらなる登山道の荒廃が進み、対応できなくなることが懸念される。

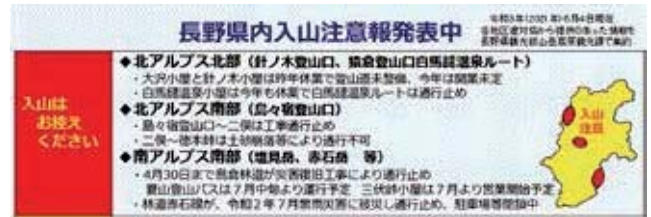


図2 長野県内コロナの影響

3. コロナによる登山活動域の変化 YouTube から

コロナ禍で三密を避け、都心からアクセスの良い六甲山で事故が急増している(図3)。日帰りや自宅近郊など、時間と距離を縮めることで、対応しようとしている。

その代表的な事例を読売テレビニュースで、見ることができる。家に閉じこもりがちとなる人々が、アウトドア活動に目を向け、登山をしないう者まで気軽に六甲登山道に入り込む結果、過去最多の事故者数を記録した。



図3 六甲山の遭難

<https://www.youtube.com/watch?v=Kf4Gnl1edSA&t=14s>

4. コロナと登山を取り扱った情報

コロナ下での登山のあり方について扱ったYouTubeは多い。その中で、遭難に触れたものは、2020年7月、北海道HTB ニュースの「新型コロナで登山人気高まり…滑落・遭難に注意」では、「低い山でも気を付けて」を呼びかけている。

<https://www.youtube.com/watch?v=fvwLt4QwVmw>

また、2020年5月のJNNニュースでは「命のリスクも登山自粛のなぜ」では、北アルプス一帯の山小屋が

一斉に自粛し、河童橋から人が消えた時点での放映である。国際山岳医千島氏の「登山中の発症は重症化リスクが高い」ことを説明している。

<https://www.youtube.com/watch?v=QO02DzOR9Kk>

高齢者の多い登山者は、コロナに対し最も大きな潜在リスクをかかえたスポーツなのかもしれない。

5. 数値から見た、コロナによる登山活動域の変化

2019年から2020年にかけてコロナの影響は、事故の減少県と増加県に分かれた。

特に、アルプスを中心とした山岳県では遭難者の減少が著しく、代わって、都市近郷の山を持つ、神奈川県や兵庫県が発生件数上位に上がってきた(表1)。

以下、レポート中盤に、警察庁事故統計(スライド24-38)で、まとめた結果を詳細に報告する

表1 発生上位5件

事故発生件数 上位5件				
2019年		2020		
1	長野県	265	長野県	183
2	北海道	202	北海道	176
3	山梨県	165	神奈川県	144
4	富山県	147	兵庫県	114
5	兵庫県	126	山梨県	111

神奈川は7位

山岳事故情報データに基づいた安全登山の指導法について

一般に、登山指導者や遭難対策関係者においても、安全登山に関して経験則に基づいた考え方をしている人が多い。経験則は大事な判断情報であるが、バックデータに基づかない考えは、個人の経験の範囲から生まれた偏った考え方になる危険性がある。

本報告では、後半に扱う山岳事故データベース4207から、登山リーダーに必要な事故情報を抽出した。

JMSCAでは、日本における登山技術教育の一元化を目指し、夏山リーダー(基礎、上級)の(図4)教育システムを開発し、実施してきた。



図4 U I A A 準拠上級夏山リーダー資料から抜粋

その内容は、模式図に示したように、集団行動としての人間関係に配慮した確かな技術や判断により、各種リスクを避けて、登山目的を果たすものである。安全登山U I A A の標準化登山教育の考え方に準拠した内容となっている。

ここで扱われる技術指導法には、事故データベースの情報を参考に、その対応方法について検討した内容が組み込まれている。

指導に必要な事故情報を本レポートの後半にまとめた。

山岳団体(JMSCA、労山)の組織情報と事故調査事故調査グループからjROの辞退について

山岳遭難事故調査グループからjROが辞退する事になった。

JMSCA、労山とは異なる山岳保険タイプの団体であり、加入者の年齢構成も大幅に異なる特徴を持っていただけに、貴重な情報源が失われることになった。誠に残念である。

再度復帰されることを切に願っている。

なお、表2に示す2020年データにはjROからの事故者10名が登録されている。

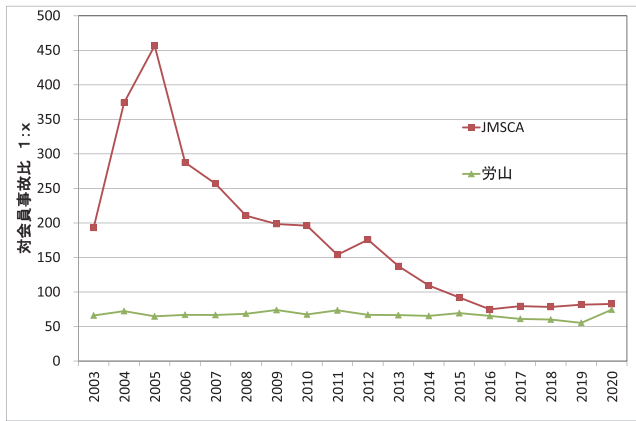
表2 2020年事故調査グループの基礎情報

2003-2020	年度	会員数	事故者数	死亡者数	アンケート回答数	回収率(%)	対会員事故比 1:x	対会員死亡比 1:x	死亡/事故者(%)
山岳協、労山、都岳連共催	2003	59428	528	23	199	37.7	112	2584	4.4
山岳協、労山、都岳連共催	2004	65238	420	11	169	40.2	155	5931	2.6
山岳協、労山、都岳連共催	2005	68430	446	28	96	21.5	153	2444	6.3
山岳協、労山、都岳連共催	2006	70417	479	31	230	48.0	147	2272	6.5
山岳協、労山、都岳連共催	2007	73446	516	24	227	40.9	142	3060	4.7
山岳協、労山、jRO	2008	73668	527	22	218	46.9	139	3349	4.2
山岳協、労山、jRO	2009	79390	530	37	179	29.4	149	2146	7.0
山岳協、労山、jRO	2010	85454	574	24	188	34.1	148	3561	4.2
山岳協、労山、jRO	2011	89751	629	21	190	34.1	142	4274	3.3
山岳協、労山	2012	74405	613	18	214	34.9	121	4134	2.9
山岳協、労山	2013	74835	703	31	220	31.3	106	2414	4.4
山岳協、労山、jRO	2014	110516	850	38	221	26.0	130	2908	4.5
山岳協、労山、jRO	2015	130111	940	37	247	26.3	138	3517	3.9
山岳協、労山、jRO	2016	138960	1090	30	228	20.9	127	4632	2.8
山岳協、労山、jRO	2017	148153	1077	37	382	35.5	137	4004	3.4
山岳協、労山、jRO	2018	156601	1077	42	315	29.2	145	3729	3.9
山岳協、労山、jRO	2019	163419	1038	30	251	24.2	157	5447	2.9
山岳協、労山	2020	63981	798	16	239	29.9	80	3999	2.0

JMSCA&労山の組織/事故情報推移

JMSCA、労山ともに、会員数が減少した。特に、JMSCAの前期高齢者層において著しい。何故、この時期において会員数が減少しているのか、山岳保険の多様化など、一般登山者の山岳保険意識変化を総合的に検討しなければならない。

事故者数(2020)は、JMSCA、労山で減少して562人、236人となった。ともに会員数の減少に比例した値で、減少している。いづれも、対会員数比が事故者:会員数=1:(60~80)で推移する(図5)。



2015年頃から山岳保険から見たJMSCA, 労山の体質は同じとなった。何故、約75人に1人程度の割合で事故が発生するのか、長い間の疑問である。

図5 対会員事故比の推移

次号へ続く



令和3年度 第4回 Web 理事会報告

日時：令和3年6月20日(日)
14:15～16:15

場所 Web会議

出席者 丸会長、亀山、小日向、高野各副会長、小野寺専務理事、羽鎌田(途中退席)、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、水島、山口、町田、前田、山本、六角、水村、青山、栗田、野村、安井、小竹、笹生、原各理事、中畠、古屋各監事

1. 開 会

2. 会議成立状況報告

理事数 25名中25名出席

監事数 2名中2名出席

(定款第33条、定足数=13名(1/2以上))

3. 代表理事/会長選出・挨拶

丸誠一郎氏が、出席者全員一致の賛成で新会長(代表理事)に選出された。

挨拶

改めまして、第12代会長を拜命いたしました丸でございます。先ほどの総会において八木原前会長が仰いましたようにJMSCAを取り巻く環境は厳しさを増しています。JMSCAの脆弱な点はファイナンス問題とコミュニケーションスキルであると思っています。令和2年度の決算は良好な結果になりましたが、理事が汗をかいて出来たものではありません。ここにお集まりの皆様には出来る限り高い理想を持っていただいて、アイデアを述べ、手と足を動かしてアイデアを実行して頂きたいと思っています。万が一2019年の様な失敗を犯してしまった場合には、責任は私にあります、と言える理事を目指して頂きたい、それこそがここにおられる方々の強い組織力においてJMSCAを発展に導くと思っています。選手及び選手の保護者の皆さん、指導コーチ、47都道府県の岳連の皆さん、国体参加の関係者の皆さまから10の要求が出たならば、11を返す、その気持ちをもって

頂きたい、その1のプラスが無ければJMSCAの発展はないと思っています。皆さまそれぞれが当事者として強い覚悟をもって、これから2年間お働き頂きたい。冒頭に当たって一言ご挨拶申し上げます。

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

6. 議 題

議案第1号 業務執行理事の互選と管掌業務について

小野寺専務理事から画面共有で提案があった。

提案通り業務執行理事11名が、以下の様に決定した。常務理事の担当は会長の発言に基づいた。

丸誠一郎会長、亀山健太郎筆頭副会長、小日向徹副会長、高野孝子副会長、小野寺齊専務理事、羽鎌田直人常務理事・事務局長、古賀英年常務理事・登山部長、村岡正己常務理事・SC部長、相良忠磨常務理事・総務財政担当、蛭田伸一常務理事・コミュニケーション・共済会担当、濱田豪常務理事・財政担当

理事は以下の方々である。
水島彰治、山口純子、町田幸男、前田善彦、山本讓、六角智之、水村信二、青山千彰、栗田季慎子、野村善弥、安井博志、小竹靖高、笹生博夫、原秀樹

監事は、以下の方々である。
中畠正喜、古屋壽隆

管掌業務については完全に決まっておらず、次回理事会までの課題となる。

小日向副会長：今までの流れで委員会に理事を割り振るのはやむを得ないが、Job中心に担当を決めていくことをSC部は考えている。

丸会長：登山部は古賀部長に任せている。

議案第2号 今後の理事会運営について

小野寺専務理事から前年度までの理事会運営について説明があった。これからの進め方について今まで通りでよいかどうか、また、町田理事からの提案があり、その紹介があった。

その内容に基づき、各理事からは曜日や時間帯など自分の日程と絡めて考えて発

言があった。理事会開催については、以下のように決まった。

曜日は原則第2木曜日、理事会は14時から開催になった。

7月は15日、8月12日が理事会開催となる。

議案第3号 今後の常務理事会運営について

前述に合わせて常務理事会は原則第2木曜日、開催は13時からになった。この開催時間については議題内容によって開催時間を早めるとの意見が出たが、本日の結論は持ち越しとなった。7月15日、8月12日は開催になる。

7. 報告その他

組織管理運営規程について

小野寺専務理事から概要について説明があった。

公益法人理事の役割、勉強会について

小野寺専務理事から概要、及び今後の計画について説明があった。理事だけでなく、正会員にも必要との提案があった。

ガバナンスコードについて

中期経営計画五ヶ年についても亀山副会長から今後の見直し、訂正について提案があった。半期ごとに行ったほうがよいとの意見があった。ガバナンス担当理事からは、ガバナンス面の意見やチェックが必要であれば、必要に応じて関与するとのことであった。各部から提案を頂いて作ったらどうかとの提案があった。

勉強会の日程については、早めに設定すること。財政再建諮問委員会についても計画に含めるかどうか、検討したい。

登山部、SC部、今後の予定について、各部で話してもらうように提案があった。

業務執行理事は4か月に一回職務執行報告を出しているが、各理事に対しても、会長が拜見するので準じたものを提出願いたい。役員選考委員会については、業務執行理事が決定した時点で規程通り、解散になる。解散宣言は必要ない。各役員から就任にあたっての挨拶があり、自己紹介、今後の抱負などを披露した。

8. 閉 会

令和3年度 第5回 Web理事会報告

日時：令和3年7月15日(木)

14:00～17:00

場所 Web会議

出席者 丸会長、亀山、小日向、高野各副会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、蛭田、濱田各常務理事、水島、山口、町田、前田、山本、六角(途中退席)、水村、青山、栗田、野村、安井、小竹、原各理事、中島、古屋各監事

欠席者 羽鎌田常務理事、笹生理事

1. 開 会

2. 会長挨拶

ご苦勞様です。本日は新役員メンバーで2度目の理事会です。ここ1ヶ月の間にいろんな方と面談しました。新スタッフで令和3、4年をどのように運営していくかについて話しました。問題点及びその修正点も見えてきました。不明点は顧問とか前役員に何って確認しながら今日を迎えています。理事会の運営は今まで通り、専務理事にホストしてもらいますが、ビデオは、会議中はオン(顔が見えるように)でお願いしたいと思います。1ヶ月に1回しか皆さんとも会えない貴重な時間を大事にしたいと思います。私のメッセージはビデオ配信したいが、担当が、オリンピック前は多忙なので、その後に実践したいと思います。無観客も突然だったので対応に追われており、有言したことが実行できておらずお詫びいたします。本日の討議の中で委員会・委員長、担当理事等々をこちらからお願いする形で草案を出させて頂きます。理事会が終わった段階でビジネスプランのご提出を準備する様にお願いしております。ビジネスプランを書いて提出頂き、各委員長・担当理事と面談させて頂き、その総括について、パフォーマンスを1月、2月をお願いしたいと思っています。プランは非常に大事であり、追って説明させて頂きたい。本日は宜しく申し上げます。

3. 会議成立状況報告

理事数 25名中23名出席

監事数 2名中2名出席

(定款第33条、定足数=13名(1/2以上))

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

ホストは小野寺専務理事が務める

6. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

2021年度第4回理事会議事録の承認について(事前送付済)事前に配布しており、全員一致の承認になった。

議案第2号 役員の担務について

最初に登山部の古賀常務理事・登山部長から提案があった。担務に先立ち、新委員会設立の説明があった。規程の改定は、承認後に提案する予定。国際資格委員会の新設、自然保護委員会を自然保護・SDGs委員会への名称変更、及びその主管・担当理事が提案された。また、ア

イデア段階であるが、山岳スキーのオリンピック化(予定)による今後の委員会としての動き、そしてアイスクライミング委員会の処遇などが提案された。既存の委員会の主管・担当理事についても提案があった。古賀常務理事からの説明に対し、担当理事の役務の内容や担当理事の定義が規程上存在しないこと、担当理事は不要ではないか等の意見があり、ガバナンス委員会にて、登山部の新委員会の設置を含め、組織管理規程の変更を検討することになった。また、登山部門の主管理事と委員長が兼務になっている委員会の人事については、見直しが行われることになった。

※登山部については8月に再提出となった。

次に村岡常務理事・SC部長からSC部の理事について資料に基づき、提案があった。追加で、委員会は複数だが、理事レベルは互いに連絡を取り合っていくことにしている。

※SC部は提案通りに進めてほしい、とのことになった。異議なく承認になった。

総務部は小野寺専務理事から資料に基づき提案があった。

※一部訂正のうえ、異議なく承認になった。

議案第3号 規程の追加について

オリンピック報奨金規程について

小野寺専務理事より、資料に基づいて提案があった。

意見：今回の提案はこれでよいが、他の大会の報奨金については今後考えて行ってほしい。

※全員一致で異議なく承認された。

議案第4号 正会員の承認について

富山県山岳連盟

退任 山田信明氏、入会 中西紀夫氏

石川県山岳協会

退任 高田和彦氏、入会 新 耕一氏、

群馬県山岳連盟 入会 吉田直人氏

小野寺専務理事より上記の方々が推薦された。

※提案通り、全員一致で異議なく承認された。

議案第5号 ゴールドウインとの契約について

小野寺専務理事より、資料に基づいて提案があった。

小野寺専務理事からの資料に基づく説明に対し、入札や情報開示の有無、他社と競合の是非等について意見が述べられた。

※選手の要望を踏まえて先方とこちらの関係者も含めて再度打合せすることになった。

議案第6号 顧問の推薦について

小野寺専務理事から資料に基づいて提案があった。

※八木原前会長、尾形元副会長・前専務理事を顧問候補として承認された。

議案第7号「役員定年制と理事継続期間」制定について

亀山副会長から資料に基づいて提案があった。主な要点は下記の通りである。来年の6月の総会に間に合わせたい。ガ

バナンス委員会に負荷がかかる。別途担当委員会を設置する。メンバーは会長一任とする。役員選考規程も変更していきたい。

亀山副会長からの提案に対し、役員選考規程の改訂の検討は、役員定年制や理事継続期間の議論とは切り離して考えるべきといった意見が出され、議案第7号の担当委員会では、役員定年制と理事継続期間の検討のみを行うことで、設置が承認された。委員の選考は丸会長に一任された。

※丸会長にメンバーを決めて頂きたいとのことで一任、全員異議なく承認になった。議案第8号 雪崩災害防止功労者の推薦について

小野寺専務理事より資料に基づいて提案があった。

8月20日までに推薦者があれば、連絡をお願いしたい、とのことで全員異議なく承認になった。

7. 報 告

報告第1号 オリピックチケット配券について(口頭)

小野寺専務理事からオリピックは無観客になったとのことで、配券なしとの報告があった。

報告第2号 スピード日本代表選手追加について

小野寺専務理事から、池田雄大選手が常務理事会で承認されたとの報告があった。

報告第3号 登山指導委員会規定集改定について

小野寺専務理事から、常務理事会で承認されたとの報告があった。

報告第4号 山形県山岳連盟不祥事案件、J S P Oへの提出について

小野寺専務理事から、裁定委員会にて調査した結果、特に問題点はなかったとのことでJ S P Oに報告する旨、常務理事会で承認されたとの報告があった。

報告第5号 C J C / S J Oについて

村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。コロナ禍でスタッフの方を集める苦勞があったとのこと。

報告第6号 ユースC、Dについて

村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。9月の18(土)～20日(月)で行う予定になっている。低年齢者に対して競技の認知度を深めたい目標がある。コロナ・デルタ株対応も考え・換気や入場者数についての言及もあった。

報告第7号 山の日協議会について

小野寺専務理事より、資料に基づいて報告があった。入会・寄付キャンペーンのご依頼という事で来局、丸会長とともに対応したことの説明が資料に基づいてあった。寄付だけ募っても会員も増えないし、会員になって何に貢献できるかも明確ではない、寄附金の有効利用や目標・方向性を出してほしい等伝えた。

報告第8号 尾瀬山荘特約契約

小野寺専務理事より、資料に基づいて報告があった。

報告第9号 全山遭幹事会議事録

町田理事より、本来の目的は減遭難であるとのコメントがあった。

報告第10号 全国指導委員長会議議事録
小野寺専務理事より、資料に基づいて報告があった。

第11号 公認大会について

小野寺専務理事から、愛媛県松山市から「母恵夢カップ第1回スピードスターズ選手権大会2021」の公認申請があり、常務理事会において承認されたとの報告があった。

報告第12号 月次決算報告

相良常務理事から資料に基づいて6月までの月次決算報告があった。補助金については、前年度分は既に決済しており、今年度分である。遭対委員会の支出実績については再確認となる。

協賛金収入についての科目配布については、後日改めて行う。

報告第13号 役員派遣について(7月16日(日)～8月11日(日))

(1)全国山岳遭難対策協議会

7月16日(金) 於：文科省

丸会長、小野寺専務理事、町田理事

(2)オリンピック開会式

7月23日(金) 於：新国立競技場

丸会長

(3)山の日記念 全国大会

8月10日(火)～11日(水)

於：大分県くじゅう連山

丸会長、古賀常務理事

※丸会長から提案があった。

女性登用については、各NFが積極的にアピールしている。動きも急になっている。JMSCAとしても、将来的に役員候補となりうる方には委員会に入って頂くなどして積極的に活用したい。是非紹介してほしい。皆さま、各お1人で結構です。

山本、古賀：前理事の女性にも活用したい候補の一人がいる。

※小日向 Webサイトにオリンピック関連の応援記事などを入れてほしい。

村岡常務理事、安井理事で担当する事になった。

8. 検討事項

常務理事会の位置づけについて

役員勉強会について

役員選考規程について

9. 会務・役員派遣

(6月12日(金)～7月14日(日))

(1)第一回国体基準会議

6月12日(土)～13日(日)

於：菰野町体育センター周辺特設会場
村岡理事

(2)コンバインドジャパカップ

6月18日(金)～19日(土)

於：岩手県営運動公園スポーツクラ
イミング競技場 八木原会長、村岡理事

(3)令和3年JSPPO評議委員会

6月18日(金) 於：オンライン

尾形専務理事

(4)令和3年度JMSCA定時総会

6月20日(日) 於：J S O S ビル14
F 又はオンライン 八木原会長他

(5)令和3年度スポーツ安全協会評議委員会

6月24日(木) 於：オンライン

尾形評議員

(6)JOC評議員会

6月25日(金) 於：J S O S ビル14

F 八木原評議員

(7)全国遭難対策委員長会議

6月26日(土) 9時～12時30分

於：オンライン 町田理事

(8)佐賀県との連携協定締結式

7月9日(金)～10日(土)

於：佐賀県庁 丸会長、小日向副会長

(9)高校登山指導者夏山研修会

7月9日(金)～11日(月)

於：国立登山研修所

本郷指導副委員長

(10)神奈川山スポ 指定業者選定会議

7月13日(火) 於：神奈川県庁

小野寺専務理事

令和3年度 第6回 Web 理事会報告

日 時：令和3年8月12日(木)

14:00～16:35

場 所：Web会議

出席者 丸会長、亀山、小日向、高野各副
会長、小野寺専務理事、古賀、村岡、相良、
蛭田、濱田各常務理事、水島、山口、町田、
前田、山本、六角、水村、青山、栗田、野村、
安井、小竹、笹生、原各理事、中島、古屋
各監事

欠席者 羽鎌田常務理事

1. 開 会

2. 会長挨拶の後、議題に入った。

3. 会議成立状況報告

理事数 25名中24名出席

監事数 2名中2名出席

(定款第33条、定足数=13名(1/2以上))

4. 議長選出

会長が議長をつとめる(定款第32条)

5. 議事録署名人

会長及び監事(定款第34条)

ホストは小野寺専務理事が務める

6. 議 題

議案第1号 議事録の承認について

2021年度第5回理事会議事録の承認につ
いて(事前送付済)

◎事前にメール確認しており、全員一致で
異議なく承認された。

議案第2号 役員の担務について

登山部について

古賀常務理事より資料に基づき提案があ
った。前回の議論に基づいての再提案
である。組織の規程改定に影響する説明
もあったが、今回は理事の担務に係る審
議である。

◎理事担務について採決を諮り出席者24名
のうち、賛成23(議長を除く)、反対・棄
権0で提案通り承認された。

各理事が担務を果たせる環境についても
考慮してほしいとの意見があった。関連
の規程については、次回以降継続審議に
なる。

議案第3号 規程の改定について

組織管理運営規程について

今回は準備の都合で割愛となった。

議案第4号 ゴールドウインとの契約につ

いて

濱田常務理事から資料に基づいて提案があ
った。結論的にはゴールドウインとの
契約を続行したい。意見として、契約書
自体は変更無くても口頭合意の部分は
何らかの形で残してほしい。山岳スキー
は別のメーカーに依頼してほしい、比較
できるから、とのことであった。選手
の細かい要望はゴールドウインに届いて
いるとの報告があった。

◎以上のことを踏まえ、提案通り異議なく
承認された。

議案第5号「役員定年制と理事継続期間」
制定委員会メンバーと制定内容につ
いて 会長選出のメンバー 恒石直和(ガバ
ナンス委員長) 内藤順造(JMSCAに
明るい学識経験者)

小山裕治(外部学識経験者、弁護士)

委員選出は前理事会で丸会長に一任され
ており、会長から選出理由の説明があ
った。委員会ではなく、Project teamに
したい。丸山副会長から補足説明があ
った。

◎本議案について採決した結果、出席者24
名のうち、賛成23(議長を除く)、反対・
棄権0で提案通り承認された。

議案第6号 正会員の承認について(公益社
団法人)東京都山岳連盟 入会 松本 敏
氏 従来は丸山健太郎氏(現JMSCA
副会長)

小野寺専務理事より資料に基づき提案が
あった。

◎提案通り異議なく承認された。

議案第7号 アスリート委員会の規程につ
いて 水村理事から提案があった。アス
リート委員会規程によると、現状は組
織管理運営規程とは別にアスリート委
員は常任6名で、専門委員は設置出来
ないことになっている。その理由につ
いての確認があった。要望は他の委員
会と同様に常任委員は10名にしたい。
想像として、同じアスリート同志で議
決権のある常任委員と議決権のない
専門委員を分けることをやめたのは
ないか、との意見があった。

◎水村理事から制定に関わった当時の
理事に確認する事になった。

丸会長からの提案

メダル獲得者に対しては規程通り報
奨金を授与したい。スポンサーへの
報告、御礼も行いたい。関係各位に
も御礼も追々行いたい。強化委員
会から影の功労者であるスタッフ8
名に対しても報奨金を出して頂け
ないか、との申し出があった。他
の2,3のNFに確認したらNFの財
源からの前例はないとのことであ
った。しかしながら功労に対して何
かしら報いることも考えたい。会
長としての志も考えているが、理
事会で決定するというのではなく、
各自の意見を伺いたい。以下の
意見があった。(後日メールで頂
いた意見は入れておりません。)

・他のNFでも例がないのであれば、
特に出すことはない。

・個人的には差し上げたい。スポ
ーツクライミングを世の中に広め
るためには大きな力になった。NF
から何らかの形で謝意を表しても
よい。

・いろいろと努力をした方が多い、
しかし

判断が難しい。

- ・線引きは難しい、感謝状ならよいのではないか。トータルで関わった人たちの労えればよい。―――複数。
- ・3年後のパリの事も考えて行きたい。東京は行った、パリはしなかったはよくない。
- ・8人の方は責務を果たされたと思う。アマチュアではなく、プロの選手を支えた。報奨金を出してもよい。
- ・強化委員の働きはすごかった。感謝状プラス金一封があってもよい。
- ・他者と比較して誰もが認める功績だったら、出してもよい。他の組織でも揉めるところはその点である。
- ・他のNFから組織委員会に対して「この難しい時期によく開催してくれた」との感謝状が来ている。JMSCAからは届いていない。関係者に感謝の気持ちを忘れないこと、感謝状、金銭はその後の問題である。今の話しの外枠であるが、手順を考えたい。

○ご意見は拝聴したので別途、方向性を考えることになった。

7. 報告

- 報告第1号 オリンピックの結果について
安井理事(強化コーチ、JOCナショナルコーチ)から結果について報告があった。
- 報告第2号 7月度月次決算について
相良常務理事から資料に基づいて報告があった。
遭対委員会印刷費に組み込まれているSafety cardについては、遭対委員会とは別として計上する様に配慮する。金銭の流れについてもスポンと協議する。
- 報告第3号 顧問候補の推薦について(口頭)
小野寺専務理事から報告があった。前回の理事会において八木原前会長と尾形前専務理事を顧問候補に推薦した。八木原前会長は引き受け、尾形前専務理事は辞退された。八木原前会長に丸会長から顧問の委嘱状を渡すことになる。
- 報告第4号 後援名義承認について
(一般社団法人)大阪府山岳連盟 チャレンジカップ、(一般財団法人)日本山岳スポーツ協会 長谷川恒男CUP
小野寺専務理事から資料に基づいて報告があった。
- 報告第5号 世界選手権とワールドカップ派

第76回国民体育大会(三重県)中止を受けて

三重県山岳・スポーツクライミング連盟 会長 根本幹雄

開催まであと一カ月を切った8月末、第76回国体中止の決断が、鈴木・三重県知事から発表があり、8月26日、JSPPO国体委員会にて正式に決定されました。

大変残念ですが、このことを受入れざるを得ません。

ここまでご支援いただきましたJMSCA並びに47都道府県連盟/協会の皆さま、三重とこわか国体スポーツクライミング競技選手、監督、役員ほか多くの関係の皆さま、誠にありがとうございました。今後とも、よろしくお願い申し上げます。



- 遣選手について
安井理事から資料に基づいて報告があった。常務理事会において承認されている。
報告第6号 SC部各委員会常任委員について
小野寺専務理事から資料に基づいて報告があった。常務理事会において承認されている。
- 報告第7号 公認山岳コーチ 関係規程・規約および検定基準(コーチ1・2)改定について
報告第8号 公認SCコーチ 関係規程・規約および検定基準(コーチ1・2)改定について
上記2報告について蛭田常務理事より資料に基づいて報告があった。常務理事会において承認されている。
- 報告第9号 更新講習会のWeb開催の是非について(指導主任検定員)
蛭田常務理事より資料に基づいて報告があった。常務理事会において承認されている。これはSCに関してであるが、アルパインについてはなぜ行わないかとの意見があり、別途指導委員会で検討することになった。
- 報告第10号 公認大会、北陸電工 第1回小中学生クライミング大会について
開催場所が桜ヶ池クライミングセンターであり、小竹理事(富山岳連所属)から、経緯も含めて報告があった。
- 報告第11号 今後のクライミング大会予定

について
村岡常務理事から資料に基づいて報告があった。三重国体についても言及があり、スタッフのみPCR検査をJMSCAで行うしかないとのこと。

報告第12号 山岳スキーについて
笹生理事より2026年冬季オリンピック(ミラノ・コルティナダンペッツォ)の種目になったとの報告があった。4,5年先であり、選手強化については、補助金の事もあり、プランは早めの方が良いとの意見があった。

※丸会長からの依頼。
女性の理事候補にふさわしい方について
次回の理事会までに推薦をお願いしたい。

- 報告第13号 役員派遣について
(8月13日(金)～9月8日(水))
(1)インターハイ
8月19日(木)～23日(月)
於：福井・勝山市体育館ジオアリーナ
丸会長、前田理事、野村理事
(2)国体抽選会
9月4日(土) 13時～15時
於：JSPPO会議室(中2)
小野寺専務理事、西原国体委員長

- 8. 会務・役員派遣
(7月16日(日)～8月11日(日))
(1)全国山岳遭難対策協議会
7月16日(金)
於：文科省
丸会長、小野寺専務理事、町田理事
(2)オリンピック開会式
7月23日(金)
於：新国立競技場
丸会長
(3)オリンピック観戦
8月3日(火)～6日(金)
於：青海アーバンスポーツパーク
丸会長、小野寺専務理事、村岡常務理事、他
(4)神奈川県スポーツ課
8月3日(火)14～18時
於：神奈川県庁
小野寺専務理事
(5)山の日記念
全国大会 8月10日(火)～11日(水)
於：大分県くじゅう連山
丸会長、古賀常務理事

寄贈図書

会報	(公財)健康・体づくり事業財団	「健康づくり」No.520 202108	
	日本ネパール協会	「会報」2021年特別号 No.257	
	(一社)埼玉山岳・スポーツクライミング協会	「SMSCA」NEWS No.71	
	兵庫県山岳連盟	「兵庫山岳」第650号	
	日本武術太極拳連盟	「武術太極拳」2021年8月 No.378	
	(一社)大阪府山岳連盟	「山岳おおさか」No.226	
	日本勤労者山岳連盟	「登山時報」9月号 No.559	
	やまびこ山協会	「やまびこ」第195号	
	東京野歩路会	「山嶺」VOL.98 No.1098	
	日本山岳会	「山」2021年8月号 No.915	
広報誌	日本山岳写真協会	「日本山岳写真協会ニュース」8月号 第485号	
	福岡山の會	「せふり」No.406	
	中華民国山岳協會	「中華山岳」<雙月間> 284	
	(公財)スポーツ安全協会埼玉支部	「スポーツ埼玉」Vol.291	
	(公社)日本スカッシュ協会	「SQUASH」Vol.89	
	(株)ネイチュアエンタープライズ	「岳人」9月号 No.891	
	(株)山と溪谷社	「山と溪谷」9月号 No.1040	
	シマノ	「Fishing Café」Autumn 2021 Vol.69	
	新聞	(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2333号
		(株)日本運動具新報社	「スポーツ産業新報」第2334号
(株)日本運動具新報社		「スポーツ産業新報」第2335号	

「ガンバ!負けるなガバちゃん」

8月号より開始!
主人公のガバと、白猫先輩カチの4コマ漫画 作者:未来



表紙のこぼれ

1892年、英国のW. M. コンウェイらがカラコルムのバルトロ氷河を探検し、バルトロ・カンリI峰から派生する南西稜上のパイオニア・ピーク(6,790m)に登った。まさしく『カラコルムの夜明け』であった。

コンウェイらは、バルトロ・カンリをゴールデン・スローンと命名。山群は、I峰～V峰からなり、最高峰は、III峰(c7,280m)。

1963年、東大隊(加藤誠平隊長)がアブルツィ氷河側からキャンプを進めて、8月3日にIV峰を越えてIII峰の初登頂に成功。76年には芝工大隊(秋山知也隊長)がIII峰の第2登の後、II峰からI峰へと縦走して両峰に初登頂。

(写真撮影者 尾形好雄)

編集後記

2020東京オリンピック・パラリンピックが終了しました。なぜかホッとした安堵感があります。中央競技団体の一員として、コロナ渦の中で大きな問題も起こらず良くやっただと思います。次はすぐコロナ渦の対応です。新規コロナ患者が増える中、国体も中止になりました。9月、10月の個人の予定もJMSCAの事業の予定もほぼ中止になっています。でも、焦らず前を見て1歩ずつ進めば光明が見えてくることを信じて登山月報を発行します。

山岳スキーが2026年の冬季オリンピック種目に決定した、今後ますます忙しくなりそうで嬉しいやら大変そうです。(蛭田伸一)

一般財団法人 日本トレイルランニング協会

〒141-0031
品川区西五反田6-3-23-205
☎03-3492-0355 FAX 03-6451-3767

登山月報 第630号

定価 110円(送料別)
予約年間 1,300円(送料共)
昭和45年12月12日
第三種郵便物認可
(毎月1回15日発行)

発行日 令和3年9月15日
発行者 東京都新宿区霞ヶ丘町4番2号
Japan Sport Olympic Square 807
公益社団法人
日本山岳・スポーツクライミング協会

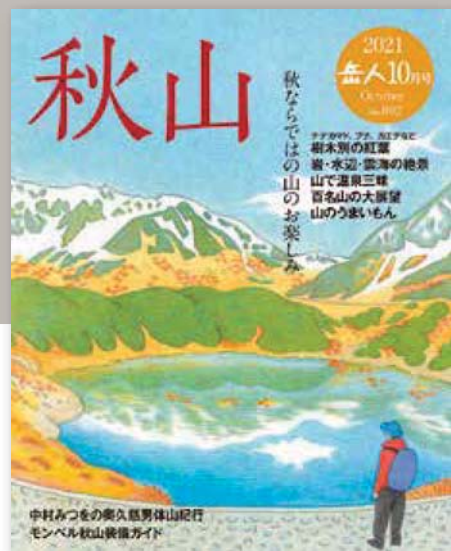
電話 03-5843-1631
FAX 03-5843-1635

山岳
雑誌

岳人

がくじん

山と人、時代をつなぐ「岳人」



10月号
発売中

【特別編集】秋山 一秋ならではの山のお楽しみー

★モンベルのウェブサイト
全国のモンベルストアや書店にて発売中!

毎月15日発売 価格968円(税込)

年間購読がおすすすめです。

購読割引 送料無料 限定品プレゼント

年間購読なら、お得な価格で毎月お手元に冊子が届きます。

通常価格12冊

年間購読なら12冊

1冊分
おトク!

~~10,560円~~ (税込)
11,616円(税込)

9,680円 (税込)
10,648円(税込)

年間購読特典

A4サイズが入る!

岳人 トートバッグ
丈夫な帆布製でマイバッグとしても重宝します。
▶サイズ:幅36×高さ37×マチ11cm

全国1,900カ所以上で
ご優待!
岳人カード
全国の温泉や山小屋など提携施設で
さまざまなご優待が受けられるカードです。

年間購読のお申し込みはこちらから! >>>
<https://www.gakujin.jp/>



全国の
モンベルストア
でも受付中!

お問い合わせ
モンベルポスト



0120-982-682 / TEL 06-6538-5797
※フリーコールは携帯・IP電話からはご利用いただけません。

SDGsで、未来をつなぐ

三井住友海上は、安心と安全の提供を通じて、持続可能な社会の実現に取り組みます



SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



SDGs (Sustainable Development Goals)とは

2015年の国連サミットで採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に掲げられた包括的で持続可能な社会の構築を目指す「持続可能な開発目標」のことです。

持続可能な地球環境		安心して暮らせる社会		活力のある経済活動	
関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組	関連する主なSDGs	主な取組
12, 13, 14, 15	<ul style="list-style-type: none"> 再生可能エネルギーの普及支援 自然災害リスクモデルにもとづくコンサルティング 	1, 2, 3, 4, 5, 6	<ul style="list-style-type: none"> 健康づくりの支援 先進技術を活用した利便性の高いお客さま対応 	7, 8, 9, 10, 11	<ul style="list-style-type: none"> 次世代モビリティ社会への対応(自動運転車等) 災害に強いまちづくりの支援

立ちどまらない保険。

MS&AD 三井住友海上

三井住友海上は、レジリエントでサステナブルな社会*をめざします。

*外部環境にしなやかに対応する、持続可能な社会



登山者のマナー 山岳保険

あなたのは山岳保険ですか？

- 傷害死亡・後遺障害
- 遭難搜索費用
- 救援者費用
- 傷害入院
- 傷害通院
- 傷害手術
- 日常生活賠償

日山協 山岳共済会

〒170-0013東京都豊島区東池袋3-7-11-707

TEL 03-5958-3396 FAX 03-5958-3397

E-mail sangakukyousai@mbd.ocn.ne.jp

月曜日～金曜日 10:00～17:00 (祝日除く)

携帯からも資料請求ができます。
<https://sangakukyousai.jp>



WEBからもお申込みいただけます